

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者 所属・職名 附属幼稚園・園長 _____

氏 名 安藤 知子 _____

研究期間 平成30年度～平成31年度

(令和元年度)

研究プロジェクトの名称	幼稚園における子育て支援に関する研究 —「親と子が共に育つ」取組を目指して—
研究プロジェクトの概要	本園では、保護者と園が共催の子育てに関する講演会の開催や未就園児も含めた親子活動、週1回の園庭開放などを子育て支援活動として実施している。また、平成28年度から預かり保育を本格的に実施し、保育や運営も軌道に乗りつつある。地域や保護者の子育てに対する意欲を高め、その教育力がより向上するような子育て支援の在り方を探るには、本園が行っているこれまでの取組を吟味し、その有効性についてより深く検証することが必要であると考えた。そこで、子育てに関して学ぶ場の提供、保育への理解を深める活動、教育相談、預かり保育といった本園の取組について、保護者アンケートなどの他者評価を活用しながら修正や見直しを行い、改善につなげながら、地域や保護者の教育力が向上するような子育て支援の在り方について2年間の研究に取り組んだ。
研究成果の概要 ※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。	本研究では、①子育て支援活動に関するアンケート調査、②預かり保育における活動の修正や見直し、③預かり保育に関するアンケート調査の3つの取組を2年間にわたって行った。①は、どの項目も、90%を超える肯定的評価であった。教育活動全般については、概ね肯定的な評価を得ることが分かった。日常的な保護者と担任とのコミュニケーション、そして定期的な保育参観の設定が、教育活動を肯定的に受け止める要因になっていると捉えた。②③については、1年目のアンケート結果をもとに、預かり保育の活動計画を見直しところ、毎日利用する割合が前年度より大幅に増えた。保護者が預かり保育に対して一定の理解を得ていることがうかがえる。また、活動の見直しによって保護者のニーズに合った預かり保育になったと推測できる。
研究成果の発表状況	保護者アンケートの結果は、PTA総会等で保護者に報告した。また、幼児の遊びの様子から、正規保育と預かり保育の関連性、保育者同士の情報交換の重要性が示唆される事例が集積された。それらの事例は、本園主催の幼児教育研究会（平成30年10月10日、令和元年度10月9日開催）や、平成30年度研究紀要「遊び込む子ども—教育課程の創造—」で報告した。
学校現場や授業への研究成果の還元について	新潟県教育委員会主催の保幼小合同研修会、県立教育センター主催の幼稚園等新規採用教員研修、本学の学習場面臨床学の実地指導等において、本園の取組を伝えた。また、全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会や新潟県教育委員会主催の幼稚園等新規採用教員研修等、幼児保育に関わる研修会などで成果を話題に挙げ、預かり保育も含めた子育て支援活動を行う方々と情報を共有した。

【提出期限】 令和2年3月31日（火）：厳守